

12月5日(火)

待合席ない7坪の“超小型店”、備蓄は100品目 新薬局「おくすりカウンター」、処方箋送信メインの業態開発

薬局経営 薬局 [12月4日 4:56]

[>スクラップに登録済み](#)



経済産業省の「グレーゾーン解消制度」を活用して話題になった新たな処方箋調剤サービス「おくすりカウンター」。最大の特徴は、待合席のない面積7坪という“超小型店舗”だ。患者がスマートフォンなどで処方箋の画像を送信し、仕事帰りなどに薬を受け取ることを主に想定したビジネスモデルで、患者が薬局内で待つことを想定していない。経営する未来の薬局（東京都新宿区）は、働く世代をコアターゲットに、駅近くの立地で多店舗化を進める考えだ。

【写真】1日に開局したおくすりカウンターグランドデュオ蒲田店（東京都大田区）

●グレーゾーン活用の郵送は「メインではない」

同社は、調剤薬局の運営を目的に今年3月に設立。9月にはJR神田駅近くに1号店の神田店（東京都千代田区）をオープンした。スマホなどを通じて患者から処方箋画像を受け付ける時間帯を5つに分け、それぞれ薬が受け取れる時間を決めている。例えば、午前8時から10時30分までの間に受け付けたものは午後0時30分以降に受け取ることができる。営業は平日の午前8時～午後10時。事前送信なしに処方箋を持ち込むこともできる。

神田店は一見すると、宝くじ売り場のような雰囲気。患者はその前に立って服薬指導や会計を済ませることになる。店舗横の扉から中に入ると、若干のスペースがあるが、一般的な調剤薬局のような待合席はない。会計は現金やクレジットカードなど店頭での支払いのほか、ウェブで決済することも可能。処方箋を直接、店舗に持参した場合には、服薬指導や会計などを済ませた後、自宅などに薬を郵送するサービスも用意している。

グレーゾーン解消制度ではこの郵送サービスが可能かどうかを確認したが、あくまで同社が提供するサービスの一部という位置付け。布目勝也社長は「郵送をメインにやり

記事検索

FAX版PDF

2017年12月5日号 FAX版PDFバックナンバー

メールニュース受信設定



アクセスランキング

かかりつけ薬剤師、薬局在籍期間「1年」に 日薬・漆畑氏、財務省が本当...

待合席ない7坪の“超小型店”、備蓄は100品目 新薬局「おくすりカウ...

岐阜県に2つ目の薬学部誕生へ、岐阜医療大が計画 新設の動き再燃、「チ...

東京都 健サボ薬局の適合店50軒に、「明薬大付属薬局」を追加

7兆円超で米保険大手買収 薬局チェーンCVS

カレンダー

2017年12月						
<	日	月	火	水	木	金
						1
						2
	3	4	5	6	7	8
	10	11	12	13	14	15
	17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29
	31					

主な予定

・12月6日(水)
中央社会保険医療協議会（9:00～12:00、TKP ガーデンシティ竹橋 大ホール）

・12月8日(金)
中央社会保険医療協議会（9:00～12:00、厚労省）

・12月13日(水)
医療用医薬品の流通改善に関する懇談会（10:00～12:00、TKP ガーデンシティ竹橋 ホール10A）

スクラップ記事

一覧はこちら

待合席ない7坪の“超小型店”、備蓄は100品目 新薬局「おくすりカウ...

たいわけではない。当社のビジネスモデルだと薬を取りに来られなかった場合に郵送という選択肢が出てくるので、そこもきちんとクリアしておきたかった」とグレーゾーン解消制度を活用した理由を話す。

●本社に在庫センター併設、置いていない薬を急配

神田店の面積は7坪弱。最低限薬局に必要な面積（6坪）や調剤室面積（2坪）はクリアしているが、備蓄薬は100品目強程度。1品目当たりの在庫量も少ない。店舗に置いていない薬は、新宿区の本社に併設した在庫センターから各店舗に使う分だけ急配する。同センターには現在約1800品目の医薬品を用意しているという。神田店のスタッフは薬剤師3人、事務2人という体制だ。

想定する患者のコアターゲットは20代から65歳までの働く世代。複数の慢性疾患を抱えるような高齢者が多く来局することは想定していない。「年配の方に出そうな薬はあまり出ないだろうということで、（在庫センターの備蓄薬は）1800品目からもう少し増えてもたぶん2000品目程度で足りると思う。それと店舗に100～150品目ほど急性疾患のものを置いておけば、対応できる」（布目社長）。

布目社長は、スマホを使いこなしている今の中年層以下の世代は高齢者層になっても引き続きスマホを使うとみる。神田店の処方箋枚数は開設して間もないため、1日まだ1桁だが、将来は3桁に持っていきたい考えだ。

●2号店の蒲田店も開局、初めてOTCなども導入

同社は当面、東京都内で多店舗化を進める考えて、1日にはJR蒲田駅ビルの2階に2号店の「グランデュオ蒲田店」（東京都大田区）を出店した。駅の改札に近い場所で、面積はやはり7坪弱と超小型。この店には初めてOTC医薬品や衛生材料など物販商品200品目弱も置いた。トイレや休憩室は同じフロア内にあるため、薬局内には設置していない。極力「無駄」を省いた設計になっている。



【写真】 いすがない店内。患者は立ったまま（グランデュオ蒲田店）

来年4～5月にはJR武蔵境駅の改札近くに3店舗目の「武蔵境店」（東京都武蔵野市）を出店する予定。蒲田店同様、OTC医薬品などを置く方向だ。布目社長は今後の店舗展開について「都市型のモデルなので、都市以外は考えていない。まず東京都内でドミナントをつくっていく」と強調する。駅の商業施設や駅近くの立地を対象に「年間3店舗のペースで出店し、もっと早く出せれば出したい」とし、「5年後に15店舗、ペースアップできれば20店舗」を目指す。

●将来は夜間の受け取りボックス設置も視野

将来は、いずれかの店舗に夜間の「受け取りボックス」を設置することも検討する。見た目は駅のコインロッカーのような形で、登録した利用者がスマホを使って、事前にあてがわれたバーコードをかざすと、ボックスが開く仕組みだ。患者は薬局が閉店した後の夜間でも薬を受け取ることができ、新たな需要の掘り起こしにつながることを期待している。

処方箋の受け付け後、待たせず医薬品の郵送も「グレーゾーン解消」の新...

在宅で医療用薬受け取り、「阻害要因」を総点検 規制改革推進会議WG、...

遠隔医療で「調剤薬局は店舗の立地戦略見直す必要も」 みずほ銀行がリボ...

JPとの処方薬宅配サービス、薬剤師の負担軽減に メディシス、医薬品よ...

